



ヤマモモ（山桃） <ヤマモモ科 ヤマモモ属>

関東南部から沖縄に自生する常緑高木。葉は、葉身 5~12 釐の倒卵形^{とうらんけい}で細長く、先の方にかけて幅広となり枝先に集まって付く。雌雄異株^{しゆういしゆ}で花は 3~4 月、尾状花序^{びじようかじよ}(細い円筒状の花の集まり)をつけ、実は初夏に直径 1.5~2 釐に赤く熟し美味。名は、山に生える桃から来ているが、桃とは別の種類。実はジャムや果実酒に、樹皮は染料や薬用として利用。街路樹や公園樹に用いられる。…▼山眠る季節、寒風のさ中、葉を空に向け生き生きと緑を湛^{たな}えるヤマモモが目にと留まった。▼ヤマモモは、古くから実や樹皮が利用され、暮らしの中に溶け込んでいたという。▼新たな年がスタートする。来る年もまた、木々や花々から元気や勇気をもらおうだろう。彼らのたくさんの「素敵」に心が動かされますように。

~安佐北区高陽町 2022・12~